

平成14年度 畜産草地研究所評価委員会

平成14年度畜産草地研究所評価委員会が平成15年3月19日に畜産草地研究所(筑波)の大会議室で開催されました。

評価委員には、家畜増殖、畜産物・品質、草地・飼料利用・放牧の専門家として、それぞれ東京農業大学名誉教授の渡邊誠喜氏、前日本大学生物資源科学部教授の森地敏樹氏、(財)神津牧場常務理事場長の鈴木慎二郎氏、公立試験研究機関関係者として全国畜産場所長会長(栃木県畜産試験場長)の諏訪勇氏、有識者として農林水産省畜産部畜産技術課長の塩田忠氏、の5名になっていただきました。

委員会の冒頭、所長から評価委員に委員会開催の意義と忌憚のない評価をお願いする旨の挨拶がありました。引き続き、委員の互選で渡邊誠喜氏が委員長に選出され、以後、委員長に議事を進行していただきました。

まず、「業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置」と「国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置」の評価に入りました。企画調整部長から評価・点検の実施、研究資源の効率的利用、研究支援の効率化及び充実・高度化、連携、協力の促進、試験及び研究並びに調査(公立試験研究機関等との研究協力)、専門研究分野を活かした社会貢献、成果の公表および普及の促進の各項目について説明があり、委員の質問を受けました。次に、総務部長から予算、資金計画、施設・設備および人事に関する計画(人員及び人件費の効率化に関する目標を含む。)について説明し、質問を受けました。

研究課題の評価では、各研究部長が平成14年度に得られた主な研究成果とその活用面を中心に説明し、質問を受けました。

総合討論では所の運営や研究課題等について委員と自由に議論し、委員長からコメントをいただいて委員会を終えました。

評価委員からは主に以下のようなコメントをいただきました。「高品質で安全な畜産物、飼料自給率

の向上、環境保全型畜産をキーワードとして全体的に優れた良い研究をしていると評価できる。日本の畜産が今ほど注目されていることはない。畜産草地研究所には、問題解決に直結する技術開発とともに、将来の発展、国際競争力の向上につながる革新的な新技術開発を一層進めて欲しい。その際、我が国の畜産が置かれている状況を俯瞰的視野で見据えた研究課題の設定や研究計画立案を行い、研究推進にあたっては、より一層の各研究部間、研究室間、研究者間の連携を密にし、研究密度の向上に努めるとともに、畜産物に対する消費者・市民との情報交換も十分に行っていただきたい。」

このような評価に応えるためには、都道府県、民間等との連携を一層深め、現場で普及しうる技術開発を目指すとともに、将来の革新的技術を生み出す芽を育てるため基礎研究にも力を入れることが大切です。また、効率良く研究を行うために、研究部間、研究室間の一層の意志疎通を図り研究所内の連携を密にして、国内外の関係方面に実効ある研究成果を発信するとともに、畜産物について消費者・市民に向けての密度の高いコミュニケーションを持つよう努める必要があります。

(企画調整部研究調整官 石田元彦)



会場全景